

平成23年度第1回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成23年4月19日(火)
- 2 開催場所 市役所5階第2、第3委員会室
- 3 会議時間 午後4時～午後4時50分
- 4 出席委員 大引巻代、川上修、中本馨、西塚友彦(七尾雅周委員代理)、姫野貞夫、前田利寛、屋敷夕貴、山岸教男、山下金次郎、松原敏雄、鳥内雅弘、藪田雅彦、小堀正夫、釣賀節子、山本弘子
- 5 欠席委員 森本太郎、佐藤泰樹、田中英雄、嵩尾憲昭
- 6 市出席者 堂故茂(市長)、棚瀬佳明(副市長)、前辻秋男(教育長)、定塚信敏(企画振興部長)、金谷正和(総務部長)、宮本秀夫(市民部長)、江添良春(建設農林部長)、山崎外美雄(教育委員会事務局理事)、有島良信(消防長)、桶元勝範(企画政策課長)、七分由紀雄(総務課長)、高橋正明(財務課長)ほか
- 7 傍聴者 市議会議員5名
- 8 案件 (1) 配付資料の説明
(2) 質疑応答、意見交換

<協議資料>

資料1 氷見市集中改革プランⅡ(実施計画【平成23年度版】)

資料2 資料 【別冊】プランの目標を達成するための具体的な取組

9 会議録

発言内容	
会長	ただいまから23年度第1回の氷見市行政改革推進市民懇話会を開催したいと思います。本日の会議は1時間ほどを予定しております。最初に新しい委員をご紹介します。氷見市ボランティア総合センター運営委員長の大引さん、氷見青年会議所理事長の中本さん、そして公募で山本さんにご参加いただきました。また、七尾委員の代理として西塚さんが出席しております。

なお、森本委員、佐藤委員、田中委員、嵩尾委員の4名の委員については本日都合により欠席と承っております。

一言ご挨拶申し上げます。桜の花も盛りですが、どうも気持ちの晴れない日々が続いています。大震災の被災地の状況をテレビで見る度、未だに胸が熱くなる思いであります。この災害によって、私どもたくさんの方のことを学ばせてもらい、再認識させられました。友達、友人がいかに大切か、あるいは命の尊さ、地域の優しさ、それから家族の絆、そういったものがとかくこれまで忘れがちであったわけでありますけれども、今改めて思い直しております。それと同時にコミュニティの重要性ということも痛感いたしました。共に重荷を背負う、担うという意味のラテン語だと聞いておりますけれども、安全で安心して暮らせる街づくりというのはみんなが力を合わせて造っていくものだとすることを改めて認識しているところです。そういう意味で氷見市の行政改革につきましても市民全体が一生懸命に取り組む必要があるのだらうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは市長の方からご挨拶をよろしくお願いいたします。

市長

前田会長、屋敷副会長をはじめ委員の皆様には大変ご多用のところお時間を頂き大変ありがとうございます。また日頃から行政改革はもちろんです、市政全般についてご指導を頂いておりますことをこの場を借りて厚く御礼申し上げます。今会長のほうからも話がございましたように3月11日大震災が発生いたしました。大変な災害であります。改めて被災をされた皆様にお見舞いを申し上げますとともに、大変多くの方がなくなっておられます。行方不明の方もおられます。そういった方々のご冥福をお祈り申し上げたいと思っております。

今週末に私も氷見救援隊の一員として宮城の気仙沼市と石巻市へ訪問させていただきました。実際に津波の被害のすさまじさを目の当たりにして、ものすごいものだという感じました。言葉もありませんでした。避難所を訪問させていただきまして、市民の皆様からお預かりしたランドセル500個であるとか、お米だとか、そういった救援物資を届けさせていただいて、また、24人で訪問させていただいたんですがみんなで総がかりで大漁鍋1000食分、おもち、氷見うどんとかを炊き出しさせていただいて多少なりとも皆様の心が和んだのではないかなと思っております。また、気仙沼の市長、前市長、商工会議所の方々を激励させていただいて帰ってきたわけでありまして、毎日のことなのですが市内の各地域、各団体、個人の方々から義援金を頂戴いたしております、氷見市民の温かいお気持ちに毎日感謝の気持ちでいっぱいになっております。この被害を受けられた地域が復興に向けて力強く一歩を踏み出して欲しいなという気持ちとなんといっても氷見市のことについてこれから真剣に安全な街であるように防災に取り組んでいかなければならないと思っております。

本日の会議におきましては、昨年度にスタートしました氷見市集中改革プランⅡの実施計画の平成23年度版についてご説明申し上げたいと思っております。

このプランの基本計画はこの市民懇話会の皆様のご提言を受けて策定されたものであり、氷見市の行財政改革の指針となるものであります。本日も説明させていただき実施計画は最新の財政収支見直しなどを掲載しております。市を取り巻く行財政環境などの変化に適切に対応することを目的といたしております。この行財政改革の取組を通じまして、本市の財政の健全化に努めながら市民の皆様の安全で安心な生活を守る事業をしっかりと実施してまいりたいと思います。

本日は委員の皆様から率直な意見をお聞かせいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

会長

どうもありがとうございました。それでは、協議案件に入りたいと思えますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要旨を実名を伏せて公表したいと思えますので、ご了承いただきたいと思えます。それから、議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局のほうでよろしくお願ひいたしたいと思えます。

それでは、協議資料を一括して、事務局から説明をお願ひいたします。

総務課長

(協議資料の説明)

会長

ただいまの説明に対する質問、ご意見、ご提言がございましたら、どなたからでも結構でございますので、ご発言をお願ひいたします。

委員

とてもすばらしく歳出を抑えている、しかもそれは人件費というところで抑えているのをご説明いただいて、このプランどおりに継続していけたらすごいなと思っておりますので是非頑張ってくださいなと思えます。それと同時に聖域なき改革という言葉をお聞きしたと思うのですが、市議会議員の定数だとか、市議会議員の手当のようなものについての行政改革について、計画は無いのでしょうか。

総務部長

人件費につきましては、団塊の世代の職員がかなり多くおり、そういった職員がこれまでも多く退職したのですが、これからも退職していくわけでございます。そこで退職した人と同数を採用するのではなくて3分の2程度の採用にとどめることで職員数の減を計っていきたいと考えております。また、調理員や用務員の技能労務職員につきましては、民間委託や臨時職員に換えることによって、採用をしない措置をさせていただいております。これらにより職員数については必ず達成するようにやってまいりたいと考えております。

市議会議員の件についてご質問がございましたが、これにつきましては議会のほうで特別委員会を設置されまして、議員定数その他運営等についてご審議されるということでございますので、議会のほうで十分な討議をしていただきたいと考えております。

委員

特定目的基金という項目がございますけれども、それについて説明をしていただけないでしょうか。

総務部長

市にはいわゆる基金というものがございます。これは皆様方でいう貯金のことでございます。主なものでは財政調整基金というものがございます。これは皆様方でいう普通預金のようなものでございます。これは色んなことに使われる基金でございます。それから減債基金というものがございます。これはこれまで借金したものについて借金返しをするために貯金をして、この基金を使って借金返しをするというものでございます。その他に特定目的基金というものがございます。これは例えばふるさとづくり基金、社会福祉事業振興基金、教育文化振興基金というものがございます。ふるさとづくり基金につきましては、市のまちづくりの事業を行うときに使う基金でございます。社会福祉事業振興基金については保育所を建設したり、様々な福祉の仕事をする際に使う基金でございます。教育文化振興基金というのは学校の耐震化や学校建設に使われるものでございます。市では普通預金とは別にこのような特定の目的に使うための基金をいくつか用意しております。こういう基金を使ってこれからも行政改革を行っていくということで掲載しております。

委員

投資的経費でデジタル防災行政無線の内容がよく分からないので教えていただきたい。また、消防救急無線デジタル化は消防本部の無線だけデジタル化するのでよろしいのでしょうか。分団もアナログ無線機があるのですがそちらのほうはどのようになるのでしょうか。

総務部長

一部を私のほうから説明させていただいて、不足がありましたら消防長のほうから説明させていただきます。まず防災行政無線でございますが、現在はアナログで設置しております。先般の震災のときも海岸線に向けてサイレンを鳴らさせていただきました。これらの免許期間の更新が迫ってきております。この更新はアナログのままではできませんということを国のほうから言われておりますので、今年度に設計費等を予算計上させていただきました。これから順次、海岸線のサイレンでございますとか、あと各地区のほうに防災無線を設置させていただいて災害等の際に皆様に速やかにご連絡をさせていただくものでございます。消防救急無線については消防長からご説明させていただきます。

消防長

消防救急無線につきましても、防災行政無線と同じように現在アナログで通信しております。これを平成 28 年までにデジタルに変換しなければいけないことになっており、これまでの無線傍受機器類は取り扱いできないことになっております。ただ、消防救急無線については、まだ移行期間もありますので、どのような対応となるかははっきりしておりません。

委員

歳入についてお伺いしたいのですが、市税の金額を出すにあたって経済成長率というのが計算式の中に入っております。その経済成長率というのが 1 ページの参考のところにも一番最初に書いてあるのですけれども平成 22 年 12 月 24 日の閣議で出されたものを使ってらっしゃるということでよろしかったですね。そうしますと 22 年度は 1.1% でよいのですが、23 年度が

	<p>1.0%の増という数字について、3月11日の地震のあった以後の経済成長率を考えたときにこのとおりにいくのか非常に疑問です。歳入のところでお示しいただいた数字がこのままで良いのか教えていただきたいと思います。</p>
総務部長	<p>釣賀委員のご指摘のとおりでございます。この実施計画を策定したのが3月の上旬で議会にもご説明させていただいたのですが、これを策定した直後に震災が発生いたしております。経済成長率につきましては、この国の経済情勢がよく分からないということで、22年度は国のいうとおりの経済成長率で計画を立てていたのですが、23年24年25年と進む中での見込みでは経済成長率をほとんど見込まない形で歳入を計算しております。これから国の財政がどうなるか、歳入については逼迫してくるのではないかなという予感がしております。今年度はこの形で試算をさせていただきましたが、毎年見直しをしていくものですから、今後の国の情勢でありますとか県内の情勢を見ながら来年度の計画では是非とも見直しをさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>1ページで生産年齢人口というのが27年度だと26,531人まで落ち込んでいっているわけですが、こういう現象について、工場誘致とか工業の発展とかで他の市からも労働者が働きにくる場合もありますが、やはり地元の労働力が市の工場関係ではメインになってくるわけですので、現在の生産年齢人口の維持等について市はどんな考えをもっておられますか？</p>
総務部長	<p>総務部長が答えるのは畑違いかもしれませんが、ご容赦願いたいと思います。総務部というのは行政改革では皆様への締め付けが主な仕事ということになってきますので、ほかの部署からは睨まれることになっております。市のほうでは今年度、総合計画を策定することにしております。当然、総合計画の中では人口の推移ですとか、今ほど委員がおっしゃられたように生産年齢人口が減ってきていて、高齢者が増えてきているということも人口推移の中で見込ませていただいております。その中でどのような形で人口減に歯止めをかけるか、かなり難しいことではあると思うのですが、総合計画の中で何かしらの方策を考えていかなければならないと考えております。</p>
委員	<p>抽象的なお答えだったので、なかなか難しい問題ですが、結局地元の工場としては海外に展開していくとか、あるいは、他の国内の優良企業が氷見に来てやろうかというときに労働力人口が無いじゃないか、労働力が無いから駄目だと、このように言われたら厳しいなと思うわけです。ひとつの心配です。</p>
副市長	<p>ご心配のご発言をいただきましたが、確かに氷見の色々な問題を考えるときに人口減というのが大きな足かせになっております。人口減については日本全体が置かれている状況でもあり、やむをえないという部分もあるのですが、総合計画におきましては少しでも人口減のカーブを緩やかにしたいという思いをもっておりまして、そのために総合計画の中で色々な議論をしていきたいと思っております。氷見では約50,000の人がいるのですが、うち約</p>

30,000 人が職を持って働いています。さらにそのうちの 10,000 人が実は氷見から高岡、富山、射水市のほうへ働きに行っているという構成になっております。市外勤務に伴って住居もより働き口に近い場所に変更される場合もあるわけでございます。人口増につきましては、そういう意味で雇用、子育て、産業、居住と色々な面から考えていく必要があるかと思っておりますけれど、おっしゃられたとおり一番大きな効果があるのは雇用でないかと思っておりますのでなんとか良い企業を氷見に誘致する、加えて氷見の地場産業の足腰を強くしていくという両方の面から少しでも前へ出るという形で検討していかなければならないと思っておりますので今後の総合計画の議論の中で是非知恵を出してまいりたいと思っております。

委員

私は総合計画の策定委員にもなっているのですが、その中で 10 年後に氷見市が氷見市として存続することができるようにというのがひとつの目標のように書いてあったんです。そのときに人口動態を見させていただいたのですが、10 年後は 48,000 人ほどになるとありました。

氷見市にはすごく良い面があると思います。生活する中であって漁業はあるし、農業はあるし、工業がちょっと少ないので日本全体は中小企業の国ということですから、氷見市にもっと中小企業ができれば働くことができ良いかなと思います。それからもうひとつは女性が県外に行ってしまうという傾向があるということと結婚率がすごく少ないということが書いてありましたが、個人の持ち家率が 1 位であるというのが統計にありましたので、そのような良い面というのを作り出して、この行政改革というのほどちらかという借金と借金を少なくして抑えていこうという感じなのですが、もうちょっと積極的に作り出すことも考えたらよいのではないかと思います。

副市長

ただいま非常に前向きなご提言をいただきました。是非そういうものを盛り込んだ総合計画を作っていきたいと思っております。

委員

老人会の山下です。あまり細かいことは読んでいないのですが、この実施計画の作成時点は 3 月 11 日以前とのことですが、今回の東日本大震災は大変なものでした。新聞やテレビを観ますと被災地を引き上げて他の所に移住したいという人もたくさんおりますし、氷見市においてそういった受け入れについて何か考えておられるのかどうかということについてどうでしょうか。

副市長

大変気の毒な状況になっている東北地方ですけれども、受け入れにつきましては市の市営住宅 5 戸を希望があれば提供することになっております。現在は 1 戸について被災者の方がお住まいでございます。おっしゃられたご質問は避難所の方を受け入れできないかというご質問だったのでしょうか。

委員

現地では大変困っているようですし、氷見市内に空き家もあると聞いていますし、アパートにもだいぶ空きがあると聞いています。この際たくさん受け入れをしてはどうかと質問いたしました。

副市長

雇用促進住宅というところもございましてご相談があれば応じたいと思

います。ただ、避難所におられる方々が氷見に来られるかどうかについては、向こうをなかなか離れがたいと考えておられる方々もたくさんおられますので、簡単ではないかなと思います。いずれにしてもこれから復興の段階でいろいろなお手伝いをしていく必要があるかと思っておりますので柔軟に対応していきたいと思っております。

会長

どうもありがとうございました。そのほかに何かございせんか。もし無いようでしたらこれで質疑を終わりたいと思っております。無いようですのでこれで質疑を終了したいと思っております。閉会にあたりまして市長から一言いただきたいと思っております。

市長

本日は誠にありがとうございました。今日も貴重なご意見を頂きましたが、いつもは喧々諤々、毎回時間をオーバーするくらいでしたが今日のように短く終わったのは初めてではないかと思っております。皆様の後押しを頂いて合併をしないというところから始まった行革ですが、皆様から見ればまだぬるいとおっしゃる面もあるとは思っておりますが、こうした後押しを受けてなんとか行財政改革を進めてこれたのではないかと思っております。ただし、1,000人以上いた人員が400人台になり、相当人員を減らし、借金も相当減らしましたが、もう一息というところで、4、5年前に三位一体改革が実行されてしましてどん底へ突き落とされました。その後、あきらめずに頑張っている中で、自民党の経済対策が相当実施されている、そして民主党になって2年間は思ったより交付税が配分されました。思ったより配分されたというよりは元に戻りつつあると言ったほうがよいかもかもしれません。そういった中で行革を行ってきたということもあいまって、市民病院の建設の見通しがついたということ、学校の耐震化、それから南部中学校と朝日丘小学校の改築の見通しがつけられ、行革をやりながらもやるべき仕事も進めて借金を減らしてきました。甘いと言われるかもしれませんが、私からすれば、トンネルの向こうが少し見えてきたということだと思っております。ただし、さきほどから議論があるように国の方向が必ずしもはっきりしません。市の財政は交付税に頼っている面が強いので、国の方向が、例えば消費税をどうする、この大震災の後始末をどうするかなど大変不透明な部分もありますので、予断を許さないと考えていますが、最大限の注意を払って、最善の道をこれからも皆様のお力を借りて進んでいきたいと思っております。ただし、一層の少子高齢化が進んでいます。市の活性化を図るためにはどうすればいいかということさらにはふんどしを締めて取り組んでいかなければいけません。また、市民の安全対策に取り組んでいかなければならないという課題もあります。ただいま総合計画を策定しておりますのでその中で皆様のお知恵を借りて良い計画にして、さらに行革も進めて持続可能な氷見市、氷見らしい氷見市を作っていく努力をしていかなければならないと思っております。今日は本当にお忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。今後ともお見守りいただきますようによろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。この行革につきましては別冊がございます。これを十分に見ていただきたいと思います。職員の旅費を削るという話もありますし、特別職と言われる各種委員の手当を検討するというものもあります。市の方で非常に一生懸命取り組んでおられます。それを受けて我々も一生懸命にできることはやっていかなければならないと思うわけでございます。特に市長のおっしゃったように交付税は、この後、当分は被災地にまわさなければならないから氷見市分は減るという話がないとも限らないわけでございます。お先まっくらで闇夜の中でカラスを眺めているような感じでございますけれど、市民あげて一生懸命取り組んでなんとか市の財政を正常化させていきたいというふうに思っておりますので今後とも皆様方に色々お話し合いがあるかと思っておりますけれどもよろしく願いいたしたいと思っております。本日は長時間ご討議ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。